

6000灯の幻想空間 水天宮ライトアップ コンサート&灯明まつり

3月24日、水天宮で「ライトアップコンサート&灯明まつり」が開かれました。
ライトアップされた本殿前のステージでは、「水天宮船太鼓」やアーティストの演奏などが披露されました。参道や境内に並んだ約6000個の灯明には、地元の園児や小学生が、思い思いの絵を描き入れました。甲斐貴文さん(中央町)は「近所でこんなにすてきな催しがあるとは。ハート型に並べた灯明がかわいいですね」と、幻想的な空間を眺めていました。



歴史を感じて町歩き ほとめき歩き春編

3月25日、ほとめき歩き春編・南薫寺町コースが開かれ、市内外から17人が参加しました。全8コースの一つで、17の寺が立ち並び、江戸時代の歴史が残る寺町を、地元のボランティアガイドが案内。住職による仏像講座も開かれ、参加者は仏像を手に取りながら、熱心に耳を傾けました。
友人と参加した牛島光代さん(東柳原町)は、「しばらく県外に住んでいて、改めて参加しました。昔の町並みが今も残る寺町は、歴史が守られていて素晴らしいですね。また1人でも歩いてみます」と話しました。



医王寺の住職による仏像講座に真剣に聞き入る参加者

山城の名残を体感 攻める！戦国高良山

3月31日、戦国時代に多数存在した山城を知ってもらう体験型イベントが、高良山一帯で開催され、300人が訪れました。
山頂の毘沙門(びしゃもん)城や、豊臣秀吉が陣を置いた吉見(よしみ)城などを巡るガイドツアーには44人が参加。また、甲冑(かぶと)着付け体験の他、武将に扮したスタッフが会場に登場。2人の子どもと来場した小島千晴さん(小森野)は、「戦国武将が城から眺めた光景を想像できるのが楽しいですね」と話しました。

戦国ファンという来場者が甲冑姿のスタッフと記念撮影



灯明の近くまで寄って、次々に中をのぞき込みます

雰囲気ある築300年の酒蔵で、限定の新酒を試飲



新酒を味わい花を楽しむ たのしまる春まつり

3月24日と25日、田主丸町で「たのしまる春まつり」が開催されました。
同町にある日本酒、焼酎、ワイン、しょうゆの4蔵元が同時に蔵開き。来場者は、蔵を巡って新酒や食事を味わったり、オープンガーデンなどで花や音楽を楽しんだりしました。山野詩織さん(佐賀市)は、「いろいろな花や景色、お酒や食べ物に一度に楽しめるので、欲張りな私には、最高のお祭りです」と笑顔で話しました。

市政の動き

地域経済の活性化に重点 人事異動を発令

4月1日付の人事異動が発令され、4月2日に、主査以上の職員265人に辞令が交付されました。
秘書室にビジネス担当の主査を配置。企業誘致や本社機能の移転の促進などに取り組みます。
東京2020オリンピック・パラリンピック等担当参加に部長経験者を再任用。オリンピックやラグビーワールドカップの事前キャンプ誘致に向け、関係団体との連携や受け入れ体制を強化します。



大久保市長から辞令を受け取る管理職

三つのプロジェクト 市長の特命で始動

久留米市は、将来のまちづくりを検討する三つのプロジェクトチームを、大久保勉市長の特命で立ち上げました。

西鉄久留米駅東口周辺の再開発、久留米シティプラザの運営のあり方、20年から30年後を見据えた都市づくり構想をテーマに、それぞれ検討を進めます。各チームのリーダーには、市長や副市長が就任。強いリーダーシップでスピード感を持って取り組みます。
◎総合政策課(☎0942・30・9112、FAX0942・30・9703)



検討テーマの一つ
西鉄久留米駅東口

その他、西鉄久留米駅やJR久留米駅の周辺整備を進めるため、それぞれに担当を配置しました。
辞令交付後、大久保勉市長は訓示で、「担当する職務に関する情報収集を十分に行い、時代の流れを見据えた戦略的な取り組みを進めてもらいたい」と期待を込めました。
◎人事厚生課(☎0942・30・9056、FAX0942・30・9706)



サテライトは、シティプラザの総合案内の前にオープン

石橋文化センター 出張窓口を開設

公益財団法人久留米文化振興会が、4月1日、久留米シティプラザに、「石橋文化センター情報サテライト(☎0942・36・3080)」を開設しました。
同センターや久留米市美術館の情報発信、コンサートや展覧会チケットの販売などをを行います。
また、同プラザで市民の皆さんや団体などが行うイベントのチケットも、受託販売します。
◎文化振興課(☎0942・30・9224、FAX0942・30・9714)